



ただ痒(かゆ)いだけ

井口昭久

近ごろ「本当に」を口癖のように使う人が増えてきた。テレビの出演者は「本当に」をしょっちゅう使っている。「今日は本当に寒かったですね」「昨日も本当に寒かったですね」。形容詞は他にあると思うのだが、「本当に」しか知らない若者が増えてきた。「昨日も今日も寒かった。明日も寒いでしょう」、で済むことなのだ。本当に。

私は昨日も今日も痒かった。微妙に痒そうな皮膚の表面をそっと触ると、放り投げた餌に食いつく池の魚のように、痒みは体の中から湧いてくる。

この頃の大学は白板にマジックインクを使

って授業をする。先日の授業のことだった。書いた文字を道具で消そうとしても消えなかった。白板が古くなるとそういう現象が起こる。消しても、少し薄くはなるが既成の文字はくつきりと残った。消せない文字の上に更に書くと白板が汚くなって行く。私が掻いた体のように。私の人生のように。

私はアトピー性皮膚炎である。

アトピー性皮膚炎は乳幼児に発症し、成人になると自然に治ることが多い。似た症状で、老人に出現する症候は老人性掻痒症と言われる。「その年齢でアトピーか？」と知人の医者に訊かれるが、私はアトピー性皮膚炎であ

る。

白板に書いた文字を消そうとして学生に背を向けると私語が始まる。私語とは授業中に学生たちが勝手におしゃべりをする事である。授業中の教室でふつとわきあがり教室全体に広がると、授業が成り立たなくなる。日本中の大学の教育現場に蔓延している病気である。

私語を抑止するには最初におしゃべりをする学生を叱りつけるのが肝要である。学生全員へ向かっている注意は効果が少ない。

皮膚炎も初めのポツポツ出始めた湿疹を治療するのが肝心で、体全体に湿疹が蔓延してしまうと治療に難渋することになる。

アトピー性皮膚炎の治療の基本はステロイド剤の塗布である。塗り薬にはクリームと軟膏がある。クリームは滑々として広がるので体全体に塗りやすい。軟膏はべとつくが特定の箇所の湿疹には効果的である。だから最初は軟膏がよい。

成人のアトピーは生

活習慣病ではないかと
言われている。ストレスや不規則な日常生活等で悪化する。

私にとって飲酒がいけない事は分かっている。分かつてはいるが、この原稿はビールを飲みながら、背中を掻きながら書いている。

予防には保湿剤が使われる。体全体に塗布することが肝要である。

人体には自分の手が届かない未踏の部分が背中にある。妻との日常生活を慈しんでおくのがベターである。

痛みには、鈍痛、疝痛などの種類があるが、痒みには種類がない。

ただ痒いだけ。本当に。



チェチュベチュをする老人 (アゼルバイジャン)

井口昭久 1943年長野県生まれ。名古屋大学医学部卒業後、同第三内科入局。愛知医科大学講師などを経て'78年ニューヨーク医科大学留学。'93年名古屋大学医学部老年科教授。名古屋大学医学部附属病院長を経て現在、愛知淑徳大学教授、名古屋大学名誉教授。『鈍行列車に乗って一医者人生ソロソロ帰り道』(風媒社)など著書多数。